

# findコマンドの-pruneオプション

[manページ](#)では「**true**を返します。 处理対象がディレクトリである場合、ディレクトリ内に入っています。」といふ説明で、いったいどういう効果なのかわかりにくい**-prune**オプションについてのメモ。

## 「説明」の指定された式 (expression)

[manページ](#)の説明にある「指定された式 (expression) を左から右の順で評価していきます。」が重要なポイントで、これでオプションによる結果が決まることになる。

## findコマンドのexpression

findコマンドで/var以下からディレクトリを検索するが logディレクトリより下を除外する場合は下記のように指定する。

```
$ find /var -type d -name log -prune -o -print
```

これはこのように実行されることになる。

command	path	expression-1	operator	expression-2
find	/var	-type d -name log -prune	-o	-print

1. pathを起点に検索を開始する。
2. expression-1に合致した場合
  1. -pruneオプションの結果としてtrueが返されるが パスは出力されない
  2. **operator**以降の式の評価は行われない
3. expression-1に合致しなかった場合
  1. expression-2に従いパスが出力される

これらの組み合わせにより「**log**ディレクトリより下を除外」がされることになる。

From:  
<https://kijima.mydns.jp/dokuwiki/> - Kijima's private wiki  
 Permanent link:  
<https://kijima.mydns.jp/dokuwiki/doku.php?id=find%E3%82%B3%E3%83%9E%E3%83%B3%E3%83%89%E3%81%AE-prune%E3%82%AA%E3%83%97%E3%82%B7%E3%83%A7%E3%83%B3>  
 Last update: 2023/09/17 00:47

